

意見提出元	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
-------	------------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動通信の世界では、より高速なサービスが要望されてきており、今後もこの傾向は続いていくと想定。これらの高速化の流れに加え、端末機器の高度化、コンテンツリッチ化等の相乗効果により、移動通信サービスは、様々な機器との融合、パーソナル化の促進等、ますますサービスが多様化していくものと想定される。</li> <li>● 今後10年間におけるシステムの発展としては、世界的にも3Gから3.9G(LTE方式)へ主流システムが移行していくものと想定される。さらに、想定されている標準化スケジュールを踏まえると(2011年にITU-R勧告化)、2010年代後半には、最大1Gbpsの伝送速度を提供可能なシステム(IMT-Advanced)の導入が現実のものとなると考える。</li> </ul>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 弊社実績では、ここ数年間は年率1.6倍のペースでデータトラフィックが増加している。また、総務省の試算によれば、今後10年間で移動通信システムのトラフィックは約200倍に急増するとされている。このようなトラフィック状況に加え、移動通信サービスの多様化により、トラフィック増加傾向は今後ますます加速していくと想定される。従って、今後も引き続きユーザ様へ高品質なサービスを提供するために、トラフィック対策として、可能な限り多くの周波数を割り当てていただきたい。その際、国際的な周波数アレンジメントの観点から、ITUでIMT Bandとして特定されているものの、未だ国内で割り当てられていない帯域から追加周波数を割り当てることを希望します。</li> <li>● 2010年代後半のIMT-Advanced商用化に間に合うように、周波数再編アクションプランに記載されている3~4GHz帯についても、可能な限り多くの周波数割り当てを速やかに実施していただきたい。</li> </ul>
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	